

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791300163		
法人名	メディカル・ケア・サービス福島株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム伊達保原		
所在地	福島県伊達市保原町字京門23-1		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和3年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様もスタッフも生き生き楽しい自立支援

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型介護サービス事業所としての役割を理解し、コロナウイルス感染拡大前は、地域との交流や事業所の持っている力で地域に貢献する活動を行っている。 利用者家族にアンケートを行い、事業所の行事や利用者のケアについて、自由に意見や要望を出してもらい、運営や職員の質の向上に役立てようとしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	伊達保原の運営理念をもとに、各ユニットでも理念を掲げ日々努力している。	理念は、事業所開設時に職員で話し合い作成している。地域密着型介護事業所として、地域との連携を大切と考え、地域との交流が育まれたときに理念が活かされていると考えている。理念を活かし、理解して貰うため、朝礼時に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント等に積極的に参加していきたいが、今年度は、新型コロナウイルスの為、イベントが全て中止になったしまった。	町内会の掃除等に参加したり、回覧板も回して貰っている。中学生数名でフルート演奏してくれたり、障害者就労センターの方達が来所してくれている。中学生の職場体験学習で、数名を二日間受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3月に認知カフェの計画をたてていたが、7月に延期		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様や職員に関する事項、事故報告、行事イベント等の報告をし、意見や要望、アドバイス等を頂き、サービスの向上に繋げている。 現状として新型コロナウイルスの為、会議は中止。	会議の中で、地域の様々な情報を貰っている。報告したことに意見や提案をもらい、事業所の運営やケアの質の向上に繋げている。会議の開催日と、避難訓練を同日に行い、会議参加者に協力して欲しいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	伊達市高齢福祉課と連携を図り、問題などが発生した場合、相談し助言を頂いている。 介護サービス相談員の施設訪問も定期的に行われていたが、新型コロナウイルスの為、休止。	提出物に関して、電話や直接訪問し、相談している。電子メールで随時、介護保険最新情報を貰っている。コロナ関係の情報を市から早く欲しいと思っている。行事やイベントなどに参加し、市と連携を考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての研修を実施したり、職員がチェックリストに記入し身体拘束委員会、問題点や注意すべき点、改善点等を話し合い、全職員が周知している。	身体拘束はしないことを基本に研修をしている。言葉の拘束について気づいたときは、その言葉がなぜいけないのかを職員間で話し合っている。一人歩きする方には、会話したり、側にいても嫌がる方には、行動を把握しながらの見守りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての研修を実施し、事業所内で虐待が見逃されないよう、職員同士注意し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンラインにて研修に参加したり、必要な制度の利用については、活用出来るよう支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用契約書や重要事項説明書を用い解り易く説明し、同意の上契約を行っている。 疑問や相談事は随時受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回ご家族様アンケートを実施。 ご家族様からの意見に関しては、それぞれに対応し結果を掲示し、改善に努めている。	意見や要望を出してもらえよう、家族にアンケートをお願いし家族が来所された時、利用者には普段会話している時に聞いたりしている。居室等の整理整頓や入浴に意見や要望を貰っている。アンケートの結果を掲示して、ユニット会議などでも伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回各ユニット会議を実施。3ヶ月に1回は職員とのヒヤリングを実施し職員の気持ち考えを聞き、意見が言いやすい場を設けている。	業務に必要な物品や、修理について意見や提案を貰っている。経費がかかる物品や修理は、事業所の代表者に相談しながら対応している。職員から資格取得や研修会への参加の要望があったときは、シフトを調整し参加出来るよう対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、職員一人ひとりの評価、結果を伝え、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修やキャリアパスのクラス別研修、ユニットリーダー研修等、立場に応じた研修を実施している。 今年度は、オンラインでの研修実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所に訪問し活動情報を共有し、情報交換する事によりサービスの向上に努めている。 今年度は、中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、実態調査にて、ご本人様が困っている事や不安に思っている事などを把握する。入居後、コミュニケーションを取りながら安心を確保するための関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事や不安な事、要望などをお聞きして、ご本人様とご家族様の信頼を得る事が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の意向とご家族様の要望を把握し、必要な支援を行う事が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	話がある時は傾聴し、ご自分で出来る事は見守り、難しい事は、サポートする事で関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やケアプラン更新時に、ご本人様の状態や課題について、ご家族様と相談、話合う事で、共にご本人様を支えていく関係が築かれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や友人知人の方々に自由に来所して頂いている。馴染みの場所への外出は、ご家族様の協力を頂いて関係が途切れないように努めている。今年度は、面会や外出が禁止のため、オンラインでの面会や電話での会話、情報等を伝えている。	利用者の姉が100歳を迎えた時、お祝いしたいと希望があり、姉の自宅へ出向いている。馴染みの人が面会にきたときは、自由に話しをして貰っている。家族の協力を得て、墓参りや行きつけの理美容室などへ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の関係を把握し、職員が間に入る事で信頼関係を築き支え合える支援が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、いつでも来て頂き相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	半年ごとに、アセスメントの更新。日常の会話から、ご入居者様の思いや悩み等を聞きだしたり、困難な場合は、ご家族様と話し合いながら検討している。	利用者との何気ない会話から、言葉を聞き逃さないようにし、思いや意向を把握するようにしている。食べたい物の要望があったときは、メニューに取り入れ対応している。ユニット会議で検討、職員間で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時に暮らしの把握をしている。入居後、日常会話の中から、生活歴や昔話から情報を取り入れ把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様、一人ひとりの1日の過ごし方や、心身状態など、記録に残し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に、ご家族様などの意見や要望を参考に1ヶ月の介護計画書を作成し、その後、ご入居者様やご家族様と話し合いながら、見直している。	家族の意見や要望をもとに職員とモニタリングして、持っている力を維持できるよう、出来る事は行って貰い、個別の具体的な介護計画を作成している。本人の身体状況の変化に応じて、家族と相談しながら、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等を介護記録に残し、職員間で情報共有することで、実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意向に沿う事が出来るよう、生まれたニーズに関しては出来る限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの情報ファイルを警察署に配置。万が一、単独で外出してしまっても早期に見発見できるような体制を整える。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様のかかりつけ医の受診が出来るよう支援している。その場合、家族対応でお願いしている。受診時は、バイタルチェックや生活情報のデータを提供している。体調変化に応じ家族様へ報告し早期対応に努めている。	協力医療機関には、月2回の往診や24時間対応で、利用者・家族に安心して貰えるようにしている。歯科や耳鼻科などの専門診療科目は、家族の協力で受診している。受診結果や服薬に関する事等、受診後に伝え共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは、24時間連絡可能な体制が出来ている。また、週1回の訪問時に情報を共有し適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、1週間に1回病院へ連絡や訪問し病院関係者と連携を図り早期退院出来るよう努めたり、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応指針に併せて看取り介護の指針の説明をし同意書頂いている。ご家族様の希望する看取り場所の意向などを再度確認し、その都度説明している。	看取り体制を整え、家族の思いなどを考えながら対応している。重度化や終末期に対応するために、職員の研修を行っている。終末期対応後の職員には、労いの言葉を掛けたり、落ち着いた頃に話を傾聴するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、緊急時の対応について研修を全職員が受け、急変時の対応が出来るようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定で避難訓練を実施し、ご入居様も参加し避難場所までの流れの確認をする。消防隊員が立ち会いしアドバイスを得ている	消防署の協力を経て、避難訓練をしている。訓練後、逃げ道などを職員全員が周知しているようにとのアドバイスを貰っている。職員は同じ人ばかりにならないよう、年に一度以上訓練に参加できるように、シフトの調整をしている。食料等の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや権利擁護の研修を年1回ホーム内で実施。内容を理解したうえで、その方に合った声掛けや対応をしている。	尊重やプライバシーに関しては、人生の先輩であるという事を忘れないよう職員に伝えている。馴れ馴れしい言葉を使わず、その方に合った言葉掛けをしている。利用者同士で、尊重やプライバシーを損ねるようなときは職員が間に入り、お互いの話を聞くようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意向を尊重し自己選択、決定の機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の希望に添った生活をして頂けるよう一人ひとりのペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、身だしなみやお洒落を楽しめるよう支援している。3月3日の雛祭りや行事などで、お化粧を職員がしてあげたり、ご本人様が行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に応じた調理の手伝いをして頂き、後片付けも手伝って頂いている。買い物もご利用様と一緒に行かれていたが、今年度は、残念ながら買い物にも行かれてない。季節的な行事食も取り入れたりし喜んで召し上がっていただけるように工夫している。	法人のメニューをもとに、栄養を考慮し、喜んで貰えるようにしている。食事は、時間は決めずにその人に合ったペースで、自由に食べて貰っている。職員も同じものを、一緒に食べている。花見の季節にお弁当持参で出掛け、嬉しそうでいつもより食が増している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などは、記録に残し把握している。自立支援を行うことで、水分量1500cc摂れるよう、一人ひとりに合った摂り方を検討し支援する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、義歯は入床時、預かり消毒を実施。歯科医師からも毎月指導を受け、ご利用者様に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛けや誘導の支援を行っている。トイレになかなか行かないご入居者様に関しても、サインや行動を見逃さずさないようにしている。	布パンツの方は継続でき、下剤を服用しない排便を目標にしている。入居時、紙パンツの方に、職員のトイレへの声掛けや、言動などを見逃さない対応で、布パンツに変わった方がいる。失敗してしまった時は、責めずに素早く衣類等の交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給や運動をし自然排便出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日声掛けをし、ご本人様の希望に合った時間に入浴して頂けるように努めている。拒否される方には、ご家族様の協力を得たり、声掛けやお誘い方に工夫し入浴して頂けるよう努めている。入浴は無理でも足浴のみとか支援している。	石鹸や入浴剤等、一人ひとりの好みのものを使用して、入浴を楽しめるようにしている。脱衣所と浴室の温度差をなくし、体調に変化のないようにしている。着脱時に、羞恥心に配慮して、数分おきに見守り声掛けし、安全に入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて居室でお休みして頂いている。夜間は安心して眠れるよう気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表や服用薬品名カードを用い薬の把握をしている。症状の変化に応じて医師、看護師に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、掃除機掛け、調理の手伝い等をお願いし、皆様快く引き受けて下さり、意欲的に取り組んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩と一緒に行く外出支援を行っている。ご家族様との外出する機会も設けている。今年度は、新型コロナウイルスのため、外出は禁止となってしまった。	外の空気や光を浴びることの意味や役割を考慮し、外のベンチに座ってもらったり、外の空気を吸う機会を多くしている。事業所周辺の住宅街を職員と一緒に散歩している。家族と外出した時、外食するなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご入居者様一人ひとりの能力に応じた現金を所持していただき、好きな物を自由に購入する支援を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族様の承諾を得て、電話を掛けることができるよう支援している。年賀状などもご入居者様ご自分で書ける方は出している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>清潔を保ち季節感を取り入れた装飾や行事の写真を飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。各行事の写真や一緒に作られた作品などを飾るようになっている。</p>	<p>一人ひとり、座りたい所、居たいところで自由に過ごしてもらっている。歩行や移動が安全にできるよう、物を置かないようにしている。手洗い、うがい、マスク着用、手摺りなどの消毒・換気し加湿器を使用し、感染症対策をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>固定の席を決めることなく、皆様自由に座られている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。</p>	<p>ご本人様が使用されていたタンスやこたつ、テレビなどを持ち込んで頂き安心して過ごして頂いている。遺影を飾られ、毎朝、お茶とご飯を供え、自宅と変わらない生活になるように対応している。</p>	<p>ベッドや家具の配置を身体状況に合わせて変え、居心地よく過ごせるようにしている。自分の居室を間違わないよう、入口に名前を飾っている。衣替えは、家族や職員が行ない整理整頓している。避難時の利用者の状況が判るよう、名札で工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>「トイレ」「お風呂」など、表示する事で迷わず目的の場所へたどり着く事ができるよう、自立の手助けとなるように工夫している。</p>		